

第38回

ラテンアメリカとアメリカ合衆国

監修・講師
落合一泰

学習のねらい

アメリカ・スペイン（米西）戦争（1898年）に勝利したアメリカ合衆国は、自国中心の「パンアメリカニズム」政策を南北アメリカ大陸で推進し、多くの国々がそれに従った。1959年に反米革命を成功させたキューバはソ連と関係を深め、ソ連崩壊後も長くアメリカ合衆国と対立していたが、2015年に国交を回復した。現在のアメリカ合衆国社会では、スペイン語諸国出身者とその子孫である「ヒスパニック」がすでにアフリカ系人口を超え、文化的・社会的・政治的な影響力を強めている。ヒスパニックの歴史は、文化と文化の出会いが、きしみとともに、新たな創造力を生み出していくことを教えてくれる。

- <ラテンアメリカをのみこむアメリカ合衆国>
- モンロー主義 汎アメリカ主義（パンアメリカニズム） 米州機構
- <広がるヒスパニック文化> 亡命者と移民労働力
- 定着するヒスパニック文化 増大するヒスパニック人口
- <へだてる国境・つなぐ国境>
- 国交の断絶と回復 中南米からの労働移民 多文化をつなぐ・混ぜる

■■■ ラテンアメリカをのみこむアメリカ合衆国 ■■■

アメリカ合衆国は海に囲まれた国である。東の大西洋、西の太平洋、北の北極海、南のメキシコ湾・カリブ海である。このうち南の海でつながる地域を、アメリカ合衆国はしっかり管理しておきたい自宅の「裏庭」と位置付けた。「裏庭」を管理するために、母屋であるアメリカ合衆国の軍事力を背景に、市場経済体制を南北アメリカ大陸に広げ、「敷地」内で共存共栄を図る政策をとった。それが「パンアメリカニズム」である。その重要な一歩が、カリブ海・大西洋と太平洋を結ぶパナマ運河の開設（1914年）と管理権掌握だった。アメリカ合衆国は「裏庭」の国々に反米政権が生まれると圧力を加え、軍事介入も辞さなかった。それでも、キューバやベネズエラ、ボリビアなどに反米政権が生まれた。

■■■ 広がるヒスパニック文化 ■■■

「最初のヒスパニック」とは誰だろうか？ アメリカ合衆国の西部・南西部は19世紀半ばまでメキシコ領であり、プエルトリコは19世紀末までスペイン領だった。アメリカ合衆国に併合された後もその土地に残ったスペイン語を話す人々の子孫、20世紀以降に労働力として移民したメキシコや中米の人々を中心に、ヒスパニックと総称される人々がアメリカ合衆国に住む。ヒスパニックには、キューバ系のように、政治亡命者とその子孫もいる。ヒスパニックは英語とスペイン語の両方を使い、一般労働者としてのみならず、市や州の政治家、国政に進出する政治家、宇宙飛行士、アーティスト、アスリートとして活躍する人も数多い。ヒスパニックの間では、出身地の文化的な違いを維持している場合が少なくない。

■■■ へだてる国境・つなぐ国境 ■■■

フロリダ半島南端からわずか145キロに位置するキューバ。1959年に革命政権を樹立し社会主義を国是としたこの隣国を、アメリカ合衆国は危険とみなし、1961年に国交を断絶し、革命政権を嫌った15万人もの亡命キューバ人を受け入れた。フロリダ海峡は両国を政治的にへだてる海になったのである。1989年に東西冷戦が終わり、両国は2015年、54年ぶりに国交を回復して経済協力や文化交流を正式に始めた。こうして今、フロリダ海峡は両国をつなぐ海になりつつある。

ヒスパニックはアングロサクソン主流派から差別されてきた。しかし、スペイン語と英語を使い分け、ときには両方をまぜた新言語を生み出してきたヒスパニックは、文化と文化をつなぐ役割も果たしている。文化と文化の出会いがきしみも生むが、新たな文化を創造する力を持っている。現代日本で働く中南米出身の日系労働者も、太平洋の両岸をつなぐ人々になっている。

考えてみよう 調べてみよう

- パナマ運河建設の前と後では、世界の物流にどのような違いが生まれたのだろうか。パナマ運河が果たしてきた役割について調べてみよう。
- ヒスパニックは、いろいろな国からアメリカ合衆国に来ている。どの国からどのくらい来ているのか、調べてみよう。
- 有名なヒスパニックのスポーツ選手やアーティスト、政治家を調べてみよう。ヒスパニックが急にいなくなったら、アメリカ合衆国社会はどうなってしまうのか、想像してみよう。
- 中南米などからの日系「デカセギ」労働者が日本にどのくらいいるか、調べてみよう。日本に定着して生み出した文化も調べてみよう。